

7 ボール型キャベツの有望品種「アーリーボール」 および「スピードボール」(園試 高冷地分場)

「アーリーボール」は「CM」よりやや早く、播種後90~95日で収穫できる。球は正円で結球性良好。結球葉色は緑色。球重1kg内外で中心規格の割合および収量は高い。

「スピードボール」は「アーリーボール」より10日ほど生育の早い極早生。球は正円で結球性良好。外葉・株の広がり小さく密植に適す。結球葉はやや淡色、球重は900g内外。中心規格の割合、収量ともに高い。

(1) 背景とねらい

近年ボール型キャベツのサラダキャベツとしての需要が高まり、長野県など従来のキャベツ産地におけるボール型キャベツの占める割合も飛躍的に増加する傾向にあり、市場側からの要請も強い。また県内においても県北(奥中山27km~)を中心に栽培され、安定した価格から生産意欲が高いものがあり、新品目として面積拡大の方向性にあり対応が緊急課題となっている。

このことから生産動向に対応した適品種の選抜を行なった結果、2品種「アーリーボール」「スピードボール」が有望と認められたので参考に供する。

(2) 技術内容

① 「アーリーボール」の特性について

早晚性は「CM」よりやや早生で、播種後90~95日頃で収穫期に達する。結球性は良好で球型は正円形である。

結球葉色、球底は緑色で球の総合的な緑色度合は優れ、結球葉質も柔かく品質的に優れる。球重は1,000g内外で中心規格の割合および収量は高い。

② 「スピードボール」の特性について

早晚性は「アーリーボール」よりやや早い極早生タイプで、収穫期は播種後80~85日頃である。結球性は良好で球型は正円形、外葉、株の広がりが小さく密植に適する。

結球葉色はやや淡緑であるが結球葉質が柔かく、また球重は900g内外で中心規格の割合および収量は「アーリーボール」同様高い。

③ 適応地域 県下全域

(3) 指導上の留意点

① 収穫適期に特に注意し、収穫おくれの堅い球や大球にならぬように鮮度の高い8分結球の状態で開催する。

② 栽植距離の試験は未検討であるが、開張性が小さいので密植に適し畦幅50cm、株間40cm(500株/a)の栽植距離を目安とする。

③ 定植苗は本葉5～6枚とし、基肥主力の施肥設計で初期生育を促進させる。

(4) 試験成績の概要

① 試験課題名 ボール型キャベツ品種比較試験

② 試験年次および場所 昭和55年 岩手園試高冷地分場

③ 試験方法

1) 供試品種

供試品種	種苗社名	供試品種	種苗社名
① C M	タキイ種苗	⑥アーリーボール	坂田種苗
② 四〇	タキイ種苗	⑦スピードボール	渡辺採種場
③ ボールヘッド	タキイ種苗	⑧オーロラ1号	渡辺採種場
④ スカイボール	タキイ種苗	⑨グリーンデライト	みかど育種農場
⑤ グリーンボール	坂田種苗		

2) 面積および区制 1区10.5 m² (50株) 1区制

3) 播種期および定植期 5月8日まき 6月11日定植

4) 栽植距離 畦幅60cm 株間35cm (476.1株/a)

5) 施肥量 (kg/a) 堆肥200 炭カル12

基肥N : 1.44 P₂O₅ : 2.32 K₂O : 1.44

追肥N : 0.8 P₂O₅ : 0.2 K₂O : 0.8

④ 試験結果

球型はやや偏円形のオーロラ1号、グリーンデライトを除いて概ね球形であった。草勢はスカイボール、オーロラ1号をまさり、スピードボール、グリーンデライトは弱い傾向であった。球重はスカイボールが最大を示し、次いでグリーンボールがまさったが、グリーンデライトは大きく劣る結果となった。

収量は四〇を除いて腐敗、不結球の障害球が認められず、球重の大小が直接結びつきスカイボールが多収の結果を示した。アーリーボール、スピードボールは安定した収量を示し、CMに対し13%、29%の増収となり中心規格のL級収量でも他品種よりまさる傾向となり、特にアーリーボールの多収が顕著であった。

外観的品質は結球葉色でボールヘッドが濃緑であったほかは緑色で、品質的差異は余りなく葉質も柔かなものであった。

(5) 主要成果の具体的データ

表1 特性調査

品 種	特性項目											
	草勢	草型	結球 葉色	球型	球型 指数	球の そろい	球の 大きさ	球重 全重	ロウ 質	結球 性	球底 の 緑色	早晚性 (対CM)
① C M	中	半立	緑	球形	0.98	良	中	0.63	やや 多	普	緑	-
② 四 ○	小	開	緑	球形	-	-	小	-	普	良	緑	極早
③ ボールヘッド	中	半立	濃緑	やや 球形	1.03	良	中	0.64	普	やや 劣る	濃緑	やや晩
④ スカイボール	中～ 強	半開	やや 淡緑	球形	0.99	普	大	0.68	普	良	緑	やや晩
⑤ グリーンボール	中	半開	緑	球形	0.94	普	中	0.69	やや 多	良	緑	早
⑥ アーリーボール	中	半開	緑	やや 球形	1.04	良	中	0.67	やや 多	良	緑	早
⑦ スピードボール	弱	半立	やや 淡緑	球形	0.95	良	中	0.76	普	良	緑	極早
⑧ オーロラ1号	中～ 強	半開	淡緑	偏円	0.80	良	中～大	0.55	普	良	やや 薄緑	やや晩
⑨ グリーンデライト	弱	半立	緑	やや 偏円	0.89	良	小	0.56	普	良	緑	やや晩

※球型指数： $\frac{\text{球のたて球}}{\text{球のよこ球}}$

表2 収量調査

品 種	株の 広がり	外葉数 枚	最大葉		全重 g	球重 g	球 径		障害球率		10 a 当たり 収量 kg
			葉長 cm	葉幅 cm			たて径 cm	よこ径 cm	腐敗 %	不結球 %	
① C M	52.3	14.0	28.9	25.1	1320	836	14.5	14.8	0	0	3980
② 四 ○	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-
③ ボールヘッド	57.2	11.0	30.6	26.6	1484	948	15.0	14.5	0	0	4513
④ スカイボール	61.4	11.6	33.0	28.4	1946	1326	16.8	16.9	0	0	6313
⑤ グリーンボール	58.8	11.4	31.4	29.9	1654	1138	15.7	16.8	0	0	5418
⑥ アーリーボール	62.1	11.8	30.9	28.0	1618	1082	15.4	14.8	0	0	5151
⑦ スピードボール	45.8	8.8	26.8	21.2	1236	942	14.2	15.0	0	0	4485
⑧ オーロラ1号	60.7	12.2	33.3	28.4	1612	886	13.4	16.8	0	0	4218
⑨ グリーンデライト	45.4	10.8	26.4	24.6	812	454	10.6	11.9	0	0	2161

収穫期は8月1～14日

表3 規格別割合および規格別収量

項目 品 種	規格別割合 (重量%)					規格別収量 (kg/10a)				
	LL 1250φ 以上	L※ 840~ 1250φ	M 670~ 840φ	S 630~ 670φ	格外 630φ 以上	LL	L※	M	S	格外
①C M	0	25.8	74.2	0	0	0	1027	2953	0	0
②四 ○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
③ボールヘッド	0	84.6	15.4	0	0	0	3818	695	0	0
④スカイボール	50.7	49.3	0	0	0	3201	3112	0	0	0
⑤グリーンボール	52.2	37.1	0	0	10.7	2828	2010	0	0	580
⑥アーリーボール	0	100	0	0	0	0	5151	0	0	0
⑦スピードボール	0	83.2	16.8	0	0	0	3732	753	0	0
⑧オーロラ1号	0	68.4	31.6	0	0	0	2885	1333	0	0
⑨グリーンデライト	0	0	0	20.2	71.8	0	0	0	609	1552

個数：LL 8以内 L 9~12 M 13~15 S 16以上

※ 中心規格

(6) 残された問題点

- ① 良品質、多収品種の検策
- ② 適正栽植距離、密植限界の検討
- ③ 各作型での栽培適応性の検討

(7) 参考資料

- ① 岩手園試高冷地分場試験成績書 昭和55年
- ② 北海道中央農試野菜試験成績書 昭和52年~54年